

SARU MONOGATARI

サル物語 ナンチュウ



B群のアルファオス「ナンチュウ」(在任期間:平成26年2月～現在)は今年で30才になりました。ヒトでいうと約100才の高齢ザルです。若い頃は勢いがあるカッコいいオスザルでしたが、最近は山からサル寄せ場へ、そしてサル寄せ場から山への移動で体力が無くなるのか、園内の端っこで昼寝をする姿が目立ちます。普段の姿は貫禄がありカッコいいのですが、昼寝をしている姿は可愛いらしくなるので、そのギャップがチャームポイントです。

そんな「ナンチュウ」ですが、8月の終わりに起きたある事件で優しい一面を見せてくれました。それは8月28日に起きた「迷子事件」です。

高崎山のサル寄せ場には「おさるの保育園」があります。そこは赤ちゃんザルが母ザルに預けられ、同じくらいの赤ちゃんザル達と遊ぶ場所になっています。もちろん、群れが山へ帰るときには母ザルが赤ちゃんザルを迎えに来て一緒に山へ帰っていくのですが、時折赤ちゃんザルが預けられたまま置いて行かれ、迷子になってしまう事があります。

8月28日、C群からB群への群れの交代の時のことです。水飲み場付近までB群が到着した頃、「おさるの保育園」を見ると違和感のある赤ちゃんザルが1頭残っていました。C群「ネマクラ」の子(♂)でした。B群のサルたちも「なんだ?」と不思議な様子でその子を見ていましたが、救いの手を差し伸べるサルはいません。既に園内はB群が占拠しており、母ザルもB群の中まで迎えに来るのは不可能な状況です。

そこで、スタッフの力でC群に帰そうと挑戦が始まりました。この子は自分である程度歩けるくらいまで成長しており、まずは自力で帰ってもらおうと、ジャングルジムからC群の方へ追って見ましたが、想像以上に肝が座った赤ちゃんザルで一向に動きません。次は、ジャングルジムから引き離す作戦に切り替えました。赤ちゃんザルを捕まえ、ジャングルジムから離れたところに連れて行く予定でしたが、この時「ナンチュウ」が動きました。なんとジャングルジムからスタッフが引き離れた赤ちゃんザルを「ナンチュウ」が抱きかかえたのです。オスザルが赤ちゃんザルを抱くのは稀なことですが、そのまま抱き続けられお乳が出ないためそのうち弱って亡くなる可能性があります。その後「ナンチュウ」は、赤ちゃんザルを連れそこから離れた場所に行き、そと赤ちゃんザルを離しました。



優しく赤ちゃんザルを抱くナンチュウ

ただ、離れた後もずっと近くで見守る「ナンチュウ」。その様子を見て「ナンチュウ」のコザルを守るという仲間意識の強さに驚かされました。どれだけ高齢でも仲間を守る。オスザルの鑑だと感動しました。

その後も暫くは、サルたちの中でピリピリとした緊張状態が続きました。サルたちが落ち着いた頃合いをみてスタッフを増員し、なんとか「ネマクラ」のもとへ赤ちゃんザルを帰すことが出来ました。今は、「ネマクラ」とともに元気に過ごしています。

「ナンチュウ」もこの迷子の赤ちゃんザルもこの事件を覚えているのかは分かりません。ただ、群れが違って、同じ「サル」として守る。この姿勢は見習いたいものです。

ご意見・ご要望をおまちしています。

国立公園 高崎山自然動物園 TEL 097-532-5010 FAX 097-536-2500 E-mail / info@takasakiyama.jp http://www.takasakiyama.jp/

MT Takasakiyama Member's Club

[高崎山メンバーズクラブ] 会報

国立公園 高崎山自然動物園 2019.秋号 No.96



写真募集中!! 皆さんの撮影したステキなお写真で会報誌の表紙を飾ってみませんか。なお、お写真・データはお返しできませんので、ご了承ください。

スタッフブログ、フェイスブック、Instagram、Youtubeで高崎山自然動物園のサルの出来事を紹介しています。



★大分市内の小学生・中学生は入園料無料です。学生証などを見せて入園してください。

撮影:高崎山スタッフ

「ラルフ」離脱!!

B群の第4位だった「ラルフ」がB群から離脱しました。これによりB群のオスサル達の第4位以下の順位が繰り上がりました。(下記参照)

ラルフは2018年の秋頃から、たまにB群から離れ、ポツンと一頭でサル寄せ場へ出現する行動が見られていました。そして今年(2019年)の6月にC群のサルと共にサル寄せ場へ出現した日があったのですが、それ以降はサル寄せ場へは出現しなくなりました。C群の生息域(高崎山の山中)で見かけられたこともあり、高崎山の山の中で元気に生活しているようですが、B群には戻ることがないのでB群を離脱したものと思われます。

ラルフは現在28才とかなり高齢ですが(サルの寿命は20年から25年と言われています)、B群を離れ、これからも元気に高崎山の山の中を駆け回るつもりなのでしょう。またサル寄せ場で彼の雄姿が見られる日を楽しみにしています。



ナンチュウ(30才)



マクレン(26才)



ゴエモン(27才)



ラルフ(28才)



ハジメ(34才)



ドローン(10才)



ルフィ(16才)



ゴロー(13才)



ヤマト(12才)



ホシカゲ(15才)

B群と共に出現した際、ケガをしていたラルフ(2019.5.26)

※高崎山では5月～8月が産期であることから、サルの年齢は、9月に繰り上げています。

サルとラグビー ～サルの行動について～

今年はラグビーワールドカップ2019™の年です。日本全国、そして大分県でも国際試合が行われ、大変盛り上がりましたね。

さて「サルとラグビー」。何が関係あるかというと、ヒトとサルの身体の使い方です。

ラグビーはボールを運ぶゲームです。サルもいろんな物を持って走ったり、歩いたりします。少し似ているところがあります。少なくとも、用具を使う野球や、足でボールを蹴るサッカーよりも似ているように思います。

では、サルはどんな身体能力を持っているのでしょうか。

走る、跳ぶ、掴む、いろんな能力の中に「持ち運ぶ」というのがあり、その姿がラグビーのボール運びによく似ています。よく目立つのは、コザルが小石よりも少し大きめの石を持って歩く姿で、とても大事そうに抱えています。コザルは木の枝や、その辺りに落ちている物を何でも拾って運んでいきます。それがコザルにとって果たして必要な物なのでしょうか。食べられるわけでもなく、単に面白いからなのでしょうか。

オトナサルはそういった行動をほとんどしませんし、やはり「遊びの延長」で石遊びのバリエーションの一つとも考えられます。

サルから、持っているものを取り上げようとする、必死で逃げまわり、なかなか離しません。手を滑らせるという事もなく、しっかりと物を掴んでいます。しかし、持ち運ぶことに飽きた時や、エサを食べる時などはあっさり離します。

面白いから運ぶという事であれば、「ラグビー」のようにゲーム感覚という事もあるのかも知れません。



職場体験

高崎山では、大分市内の中学校・高校を中心に、「職場体験」の受け入れをしています。

生徒達には、サルの餌の準備(イモ切り)や園内整備などをしてもらいます。メインで取り組んでもらうことは、サルの追跡調査です。「サルの顔はみんな同じに見える」と、よく言われますが、顔の特徴を覚えてもらい「どこで・だれと・なにをしている」など、行動観察をすることで、その個体の性格などが見えてきます。高崎山での職場体験を通して「観察」する目を養ってもらいたいと思っています。



餌の準備をする生徒達



職員と一緒にサルの追跡調査



特徴を捉えようとサルを観察